

安全データシート

1. 化学品及び会社情報

化学品の名称(製品名)	クリアフィル セラミック プライマー プラス
会社名	クラレノリタケデンタル株式会社
住所	東京都千代田区大手町2-6-4 常盤橋タワー
担当部署	品質保証室
電話番号	03-6701-1730
Fax番号	03-6701-1805
緊急連絡先	0120-330-922 (月曜～金曜 10:00～12:00、13:00～17:00) 050-3499-2717 (上記フリーダイヤル営業時間外)
推奨用途及び使用上の制限	歯科セラミックス用接着材料
整理番号	215

2. 危険有害性の要約

GHS分類

物理化学的危険	引火性液体	区分2
健康に対する有害性	眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性	区分2
	特定標的臓器毒性(単回ばく露)	区分3
	特定標的臓器毒性(反復ばく露)	区分1
環境に対する有害性	GHS分類に該当する項目はない	

シンボル



注意喚起語 危険有害性情報

危険
引火性の高い液体及び蒸気
強い眼刺激
呼吸器への刺激のおそれ
眠気又はめまいのおそれ
長期にわたる、又は反復ばく露による臓器の障害
長期にわたる、又は反復ばく露による臓器の障害のおそれ

注意書き

安全対策	<ul style="list-style-type: none">・熱、高温のもの、火花、裸火及び他の着火源から遠ざけること。禁煙。・容器を密閉しておくこと。・防爆型の電気/換気/照明機器を使用すること。・火花を発生させない工具を使用すること。・静電気放電に対する予防措置を講ずること。・ガス/ミスト/蒸気/スプレーの吸入を避けること。・屋外又は換気の良い場所でのみ使用すること。・取扱い後は汚染箇所をよく洗うこと。・保護手袋/保護衣/保護眼鏡/保護面を着用すること。・この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。・使用前に添付文書及び取扱説明書を入手すること。・すべての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。
応急措置	<ul style="list-style-type: none">・火災の場合:消火するために適切な消火剤を使用すること。・気分が悪い時は医師に連絡すること。・吸入した場合:空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。・皮膚(又は髪)に付着した場合:直ちに汚染された衣類をすべて脱ぐこと。皮膚を流水又はシャワーで洗うこと。

・眼に入った場合:水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズ[®]を着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。

・眼の刺激が続く場合:医師の診察/手当を受けること。

・ばく露又はばく露の懸念がある場合:医師の診察/手当を受けること。

保管 ・直射日光を避け、冷所に保管すること(2~25°C)。

・容器を密閉しておくこと。

廃棄 ・内容物や容器を、都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に委託し適切に廃棄すること。

物理的及び化学的危険性 ・非常に燃えやすい液体である。蒸気が滞留すると爆発の恐れがある。

3. 組成及び成分情報

組成情報は営業上の秘密に該当するため、含有量を幅記載とする。

化学物質・混合物の区別

混合物

化学名又は一般名	濃度 (%)	CAS番号	化審法 公示番号	安衛法(閾値)		PRTR法 管理番号	毒劇法
				表示	通知		
エタノール※	>90	64-17-5	2-202	≥0.1%	≥0.1%	非該当	非該当
γ-メタクリロキシプロピルトリメチルシラン	<10	2530-85-0	2-2076	非該当	非該当	非該当	非該当
10-メタクリロイルオキシデシルジヒドロジェンホスフェート(MDP)	<1	85590-00-7	非公開	非該当	非該当	非該当	非該当

※:特定標的臓器毒性(反復ばく露):区分2(中枢神経系)

4. 応急措置

吸入した場合

新鮮な空気のある場所に移し、休息させる。

気分が悪い時は医師に連絡すること。

皮膚に付着した場合

皮膚(又は髪)に付着した場合:直ちに汚染された衣類をすべて脱ぐこと。皮膚を流水又はシャワーで洗うこと。

皮膚を石鹼と多量の流水又はシャワーで洗うこと。

皮膚刺激又は発疹が生じた場合は医師の診察/手当を受ける。

眼に入った場合

水で15分間注意深く洗う。その際、コンタクトレンズ[®]を着用していて容易に外せる場合は外す。

眼の刺激が持続する場合は、医師の診断を受ける。

飲み込んだ場合

水で口の中をよくすすぐ。

気分が悪いときは、医師の診断を受ける。

5. 火災時の措置

適切な消火剤

粉末消火剤、散水、泡消火剤、

使ってはならない消火剤

棒状注水

特有の危険有害性

極めて燃え易い熱、火花、火災で容易に発火する。

火災によってCO₂、CO等の有害性のガスを発生するおそれがある。

特有の消火方法

消火作業は可能な限り風上から行う。

火災の発生場所周辺に関係者以外の立ち入りを禁止する。

適切な保護具を着用して消火活動に当たる。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項

作業者は適切な保護具(「8.ばく露防止及び保護措置」の項を参照)を着用する。

保護具及び緊急措置

屋内の場合、処理が終わるまで十分に換気を行う。

漏出した場所の周辺に、ロープを張るなどして、関係者以外の立ち入りを禁止する。

環境に対する注意事項

流出した製品の河川、水路、下水溝などへの流出を防止する。

回収・中和

少量の場合、乾燥砂や不燃材料で吸収させ密閉できる容器に回収する。

大量な場合、土盛りで困って流出を防ぎ安全な場所に導いて回収する。

封じ込め及び浄化方法・機材

適応される規制に従って廃棄する。

二次災害の防止策

全ての火源を速やかに取り除く。排水溝、地下室、下水溝あるいは閉鎖場所への流

入を防ぐ。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い

安全取扱い注意事項 「8.ばく露防止及び保護措置」に記載の適切な保護具を着用する。
ガス/ミスト/蒸気/スプレーを吸入しない。
熱/火花/裸火/高温のもののような着火源から遠ざける。一禁煙。
防爆型の電気機器/換気装置/照明機器/その他機器を使用する。
火花を発生させない工具を使用する。
静電気放電に対する予防措置を講ずる。
屋外又は換気の良い場所でのみ使用する。
保護手袋及び保護面を着用する。
保護眼鏡/保護面を着用する。
使用前に添付文書及び取扱説明書をよく読む。
本品又はメタクリル酸系モノマーに対して発疹、皮膚炎等の過敏症の既往歴のある作業者は使用しない。

衛生対策 取扱い後に手、顔等をよく洗う。

保管

保管条件 直射日光を避け、冷所に保管する(2~25°C)。
混触危険物、火源の近くにおかない。
容器を密閉して保管する。
容器包装材料 オリジナルの容器に保管する。

8. ばく露防止及び保護措置

管理濃度 未設定

(作業環境評価基準)

許容濃度

日本産業衛生学会 未設定
ACGIH エタノール STEL: 1000ppm (上気道刺激)

設備対策

排気/換気設備を設ける。
洗眼設備を設ける。
手洗い/洗顔設備を設ける。

保護具

呼吸用保護具 換気が不十分な場合には、呼吸器保護具を着用する。
手の保護具 保護手袋を着用する。推奨材質:非浸透性もしくは耐化学品ゴム。
眼、顔面の保護具 側面シールド付安全メガネ又は化学品用ゴーグルを着用する。
皮膚及び身体の保護具 長袖保護衣を着用する。

衛生対策

取扱い後は汚染箇所をよく洗う。
この製品を使用するとき、飲食又は喫煙をしない。

9. 物理的及び化学的性質

物理状態 液体
色 無色
臭い アルコール臭
融点・凝固点 情報なし
沸点又は初留点及び沸点範囲 情報なし
可燃性 情報なし
爆発下限及び爆発上限界/可燃限界 情報なし
引火点 13 °C(エタノール)
自然発火点 363°C(エタノール)
分解温度 情報なし
pH 情報なし

動粘性率	情報なし
溶解度	
水	情報なし
有機溶剤	情報なし
n-オクタノール/水分配係数	情報なし
蒸気圧	情報なし
密度及び/又は相対密度	0.8 g/cm ³
相対ガス密度	情報なし
粒子特性	情報なし
その他のデータ(放射性、かさ密度、 燃焼持続性)	情報なし

10. 安定性及び反応性

反応性	通常の手扱いは安定。
化学的安定性	通常の手扱いは安定。
危険有害反応可能性	蒸気は空気より重く、地面あるいは床に沿って移動することがあり、遠距離でも引火する可能性がある。
避けるべき条件	高温、直射日光、火源など
混触危険物質	強酸化剤
危険有害な分解生成物	CO、CO ₂

11. 有害性情報

成分の有害性情報

急性毒性

経口

γ-マタクリロキシプロピルトリメチルシラン :	
LD50 ギニアピッグ	10700mg/kg
マウス	1040mg/kg
ラット	890 mg/kg

経皮

情報なし

吸入

情報なし

皮膚腐食性/刺激性

情報なし

眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性

エタノール ラビット 7日以内に回復 (ECETOC TR No.48(2), 1998et al)
 [日本公表根拠データ]

呼吸器感作性又は皮膚感作性

情報なし

生殖細胞変異原性

情報なし

発がん性

エタノール : 区分に該当しない

IARCでは、「アルコール性飲料としてヒトに発がん性がある。」としてグループ1に分類しているが、これはアルコール性飲料を習慣的に摂取するヒトの多数の疫学調査に基づき、アルコール性飲料と食道系及び肝臓のがんの因果関係を認めた為である。他方、ACGIHは、主として作業環境での有害性因子としてエタノールをA4(ヒト発がん性に分類できない物質)に分類している。本品に用いるエタノールは飲用でなく、多量のばく露を想定する必要もないため、エタノール起因の発がん性を区分外とした。

生殖毒性

エタノール : 区分に該当しない

妊娠中に大量かつ慢性的にアルコールを摂取したアルコール依存症の女性と関連して、胎児性アルコール症候群と称される先天性の奇形を生じることが知られているが、産業的な経口、経皮、吸入ばく露による胎児性アルコール症候群の報告はない。また、EUでも生殖毒性がある物質としては分類されていないため、エタノール起因の生殖毒性を区分外とした。

特定標的臓器毒性(単回ばく露)

[区分3(気道刺激性)]エタノール 気道刺激性 (PATTY 6th, 2012)
 [区分3(麻酔作用)]エタノール 麻酔作用 (PATTY 6th, 2012; SIDS, 2005)
 [日本公表根拠データ]

特定標的臓器毒性(反復ばく露)	[区分1]エタノール 肝臓 (DFGOT vol.12, 1999) [区分2]エタノール 中枢神経系 (HSDB, Access on June 2013) [日本公表根拠データ]
誤えん有害性	情報なし

1 2. 環境影響情報

成分の環境有害性情報

生態毒性	エタノール 藻類(クロレラ) EC ₅₀ =1000 mg/L/96hr (SIDS, 2005) 甲殻類(ニセネコセミアシコ属) NOEC=9.6 mg/L/10 days (SIDS, 2005)
残留性・分解性	エタノール : 微生物による分解性が良好と判断される物質
生体蓄積性	エタノール : 生体内での蓄積性が無いあるいは低いと判断される物質
土壤中の移動性	情報なし
オゾン層への有害性	情報なし

1 3. 廃棄上の注意

残余廃棄物	廃棄の際は、関連法規ならびに地方自治体の規準に従う。 都道府県知事などの許可を受けた産業廃棄物処理業者、もしくは地方公共団体がその処理を行っている場合にはそこに委託して処理する。
汚染容器及び包装	容器は関連法規ならびに地方自治体の規準に従って適切な処分を行う。

1 4. 輸送上の注意

国際規制	海上規制情報 : IMOの規定に従う。 UN No. : 1170 Proper Shipping Name : エタノール又はエタノール溶液 Class : 3 Packing Group : II 航空規制情報 : ICAO/IATAの規定に従う。 UN No. : 1170 Proper Shipping Name : エタノール又はエタノール溶液 Class : 3 Packing Group : II
バルク輸送におけるMARPOL条約附属書II 改訂有害液体物質及びIBCコード	有害液体物質(Z類) : エタノール
国内規制	陸上輸送情報 : 消防法に従う。 海上輸送情報 : 船舶安全法に従う。(IMOに準拠) 航空輸送情報 : 航空法に従う。(ICAOに準拠)
特別安全対策	転倒、落下、損傷のないように積み込み、荷崩れ防止を確実にを行う。 直射日光を避けて輸送する。
緊急時応急措置指針番号	127

1 5. 適用法令

化審法	特段規制なし
安衛法	名称等を表示し、又は通知すべき危険物及び有害物 : エタノール 別表第1 危険物 (第1条、第6条、第15条関係) 危険物・引火性の物 (0°C ≤ 引火点 < 30°C)
化管法(PRTR法)	非該当
毒劇法	非該当
消防法	第4類 アルコール類 水溶性 危険等級 II
船舶安全法	引火性液体類 分類3
航空法	引火性液体 分類3

16. その他の情報

記載内容は現時点で入手できる資料、情報、データにもとづいて作成しておりますが、含有量、物理化学的性質、危険・有害性等に関しては、いかなる保証をなすものではありません。また、注意事項は通常の手扱いを対象としたものなので、特殊な手扱いの場合には、用途・用法に適した安全対策を実施の上ご利用下さい。このSDSは、新しい知見により予告なく改訂することがあります。